

令和7年度 浜松市立芳川北小学校 学校評価報告書

I 令和7年度の取り組み

「気づく 考える 行動する」子供の姿

- 自分自身を知り、ものごとを自分事として前向きに捉える
- 関わりを深め、相手の思いを感じたり自分の思いを伝えたりする
- 課題を見付け、様々な経験や学びを生かして解決方法を考える
- 未来を見つめ、なりたい自分に向かって行動する
 - ・教科担任制 ・ICTの活用 ・教材研究
 - ・家庭学習の在り方検討等 ・教師の声掛けと仕掛けの工夫

学年(団)を軸とした「カリキュラム・マネジメント」

- 児童の1年間の育ちを見通し、学年経営構想図を基に各学年で教育活動を展開する。また、節目ごとの評価・改善を行い、常に児童の実態を把握しながら学年経営を行っていく。
- ・PDCAサイクル ・児童理解、学年担任の意識等
 - ・「知」「徳」「体」の重点を意識した指導 ・学年イベント
 - ・いじめ防止対策 ・キャリア教育 ・学年会の充実

保護者・地域と共に「コミュニティスクール」

- 9名の委員で構成される学校運営協議会を設置し、構成される学校教育方針の共有する。保護者や地域住民と一体となって、学校運営の改善や児童の教育活動の充実を図る。
- ・地域で育つ児童 ・クラブ活動 ・地域人材活用
 - ・児童の学習活動、学校整備に関するボランティアシステム (なないろパレット)

II 自己評価

○ 児童・教職員・保護者・学校運営協議会委員の評価

	質 問 項 目	達成率 (%)		
		児童	保護者	教職員
気づく・考える・行動する	自分や身の回りの課題に気付くことができる。	82.8	68.8	64.3
	自分の力で、または、周りに関わりながら、考えを深めたり、課題の改善方法を考えたりすることができる。	82.0	79.9	85.7
	自分で考えたことや改善方法を、実際に行動に移すことができる。	80.6	78.3	75.0
知育	学習したことが身に付いている。	90.6	91.1	92.9
	家庭学習(学年×10分・1、2年生は目安の時間はなし)に取り組んでいる。	75.3	64.6	64.3
	学校で学んだことが将来の役に立つと考えている(キャリア教育)。	90.9	62.2	78.6
	教科担任制を通して学習への意欲や学んだことへの理解度が高まっている。	78.3	76.8	92.8
徳育	自分の良さに気付いている。	81.3	79.2	82.1
	学校に楽しく通っている。	88.2	92.3	100.0
	いじめは絶対にしてはいけないことを理解している。	95.6	99.3	100.0
	公共マナーを守っている。	89.8	97.3	57.1
体育	自分から進んで気持ちのよい挨拶をしている。	83.0	71.5	35.7
	進んで体を動かしている。	92.4	76.0	75.0
	家の中での過ごし方を考えたり、交通ルールを守ったりして、安全に生活している。	92.0	93.2	60.7

III 評価からの分析

【アンケート結果より】

- ・「気づく 考える 行動する」の合言葉を元に、各学年の実態を捉え学年担任が目指す子供の姿を意識しながら教育活動を工夫し、支援を行ってきた。それにより、児童の80%以上が気づく・考える・行動する力がついてきたと感じている。昨年度から引き続き、気づくことができても、その気づいた課題を自分の力で解決しようとするのが苦手な児童が多いと教職員は感じていることが分かった。
- ・教科担任制を導入していることで、学習の意欲や学んだことへの理解度が高まり、学習したことが身に付いていると実感できていると約78%の児童が感じている。実施教科や時数の調整など昨年度課題と上がった点について検討し、国語科を担当が持ち、実施教科を精選したことにより、より効果的な指導を行うことができたと感じている教職員が多い。
- ・家庭学習への取り組みについての達成率が、昨年度に引き続き低い評価になっている。特に、自分で考えて学習を進めていく高学年段階で不安を抱える児童や保護者がいる。児童の実態に合った家庭学習の取り組み方を学年で検討していく必要がある。

【全国学力調査の結果より】

- ・「人の役に立ちたい」「自分には良いところがある」と答えた児童の割合が、全国平均を上回っている。これは、家庭や学校生活で培われる自己肯定感の高さや協調性の高さを示していると考えられる。
- ・これまで本校の課題だった「朝食の喫食率」や「読書への意識」は、全国とほぼ同じ割合に上がった。これは、家庭と連携した取り組みの成果といえる。
- ・タブレットやスマートフォンなどのICT機器の使用時間が全国平均よりも長いという傾向が見られた。

【いじめアンケート結果より】

- ・いじめは絶対にはいけないと約96%の児童が理解している。本校では、「芳川北小いじめ防止基本方針」に則り、いじめの未然防止やいじめの早期発見など対応を行っている。いじめを認知した際、「いじめ対策防止基本方針」とはままつの教育「いじめ対応の手引き」に沿って、被害者に寄り添って対応している。また、保護者にはいじめの状況や指導したことなど、事実に基づいた報告を行ってきた。教職員も児童がいじめがいけないと理解していると答えたのは、職員が一丸となって行ってきた指導の成果だと言える。

IV 学校運営協議会による学校関係者評価 (R8.02.13 (金))

- ・子供の学びや成長を地域・家庭で支えるという視点を基に、必要な改善点や連携の在り方について引き続き協議し、発信していく。
- ・いじめについての問題は、引き続き学校と家庭・地域が連携しながら丁寧に指導していきたい。
- ・これまで課題となっていた「朝食の喫食率」「読書に親しむ子」「SNSへの向き合い方」について、委員会としてできることを考えていくとともに、子供たちの様子や学校評価から見えてくる課題について、重点を決めて話し合い、対策を練っていく。これまでの取組により少しずつ改善されてきているため、より定着を図っていきたい。
- ・コーディネーターと教師の連携を密にし、学習ボランティア(なないろパレット)の活動の円滑化と充実を図っていく。

V 次年度に向けた改善策

- ・職員のアンケートから課題を自分の力で解決することや家庭学習への取り組みに課題を感じていることが分かった。自己調整力を育成するために、40分授業と15分の裁量時間を効果的に活用し、分散学習を取り入れながら、自分の課題にあった学習方法を選択していくことや、見通しをもって家庭学習に取り組むことができるように学習カードの形式を工夫していく。
- ・基本的な生活習慣やマナー、情報モラルのさらなる育成のために、食育やICT機器の活用の仕方などについて、年間を通して継続的に指導していけるように年間計画を見直し、担任や情報主任、栄養教諭などが協力して指導を行っていく。
- ・いじめを未然に防止するために、今後も「学年カリキュラム・マネジメント」を通じ、「思いやりの心」をもった学年集団を形成することで「いじめ0」を徹底していきたい。
- ・コミュニティスクールを通じた学習ボランティア(なないろパレット)を一層充実させ、いろいろな人から学び声掛けをしてもらうことで、児童が自分の学びを実感することが大切である。また、学年の保護者にも学習ボランティアの募集を行い、日頃の子供たちの様子を多くの保護者の方に見て頂き、学校・家庭・地域が一丸となってよりよい子供たちの成長を支えていくようにする。また、児童にとっては、達成感を味わうことで、さらに学びたいという意欲や学んだことが生活の場面でも生かされていることに気付き、キャリア教育の推進につながると思う。